日本ハンドボール協会 70周年を迎えて

(財) 日本ハンドボール協会専務理事　大西 武三

本年2月2日に日本ハンドボール協会は70周年を迎えました。

協会の設立は、1940年東京で開催される予定であったオリンピックを契機としたものです。日中戦争で中止となりましたが開催されていたらハンドボール界はどのようなものになっていたでありましょうか。ハンドボールに限らずスポーツはオリンピックとともに発展をたどっているといっても過言ではありません。

1936年のベルリンオリンピックでハンドボールは初めて種目として取り入れられ華々しく競技されましたが、その後は種目から外れ、戦後1972年ミュンヘンで男子は復活し、女子は1976年のモントリオールで初めてのオリンピック種目となっています。戦後新しくできた国際ハンドボール連盟には、日本はアジアでいち早く加盟しアジアのハンドボールのパイオニア的存在でリードしてきましたが、オリンピックに対する各国の強化も著しく、アジア№1の地位を確保できないまま女子はモントリオール、男子は1988年のソウル以後を過ごしています。学校体育教材として日本に導入されて85年、競技スポーツとして協会を設立して70年、その間にハンドボールの発展に関わってきた多くの人たちの情熱や労苦のうえに今があることを考え、またアジアでの誇りを取り戻すためにもそれぞれの立場でハンドボールの発展に寄与していかなければなりません。

日本ハンドボールの国際舞台での活躍は日本協会の使命であり、本年の北京オリンピックアジア予選・愛知県豊田市の男子、カザフスタンで女子には長年の悲願であるオリンピックへの切符の獲得の期待がかかっています。男女ナショナルチームは両監督のもと必死で頑張っています。皆様の応援とご支援をお願いいたします。

強化の土台となる普及も、協会としてはプロジェクト21の柱として地道に進めております。これには学校と地域の並列方式での発展が今後の課題であります。学校では、授業と部活動のハンドボールがあります。授業では初めてスポーツに接する小学生にハンドボールを経験してもらうことが何より重要です。子供にとってのハンドボールの素晴らしさはやっていただければ分ります。楽しくスポーツの基本があります。小学校では現在の指導要領から小学校でもハンドボールはやって良い種目としての位置づけがあり教材として取り入れる学校も多くなっていますが、教材価値としての素晴らしさゆえに指導要領の中でもっと明確な位置を望んでおります。小学校の授業でやる状況が整えばジュニアプロジェクト3000の目標である地域に子供を中心としてハンドボールチームを3000チーム作ることはもっと実現しやすくなります。また中、高、大の学齢期の部活動チームの増大に繋がります。日本協会の普及対策も都道府県・連盟に理解が深まり、小学生チームもほぼ全都道府県で活動があり普及の機運は高まっております。また普及対策の一方の旗頭であるNTSも競技者の育成だけでなく指導者や審判の育成も含めるトータル的なシステムとして今後ともさらに充実させていかなければなりません。

国際舞台での選手の活躍は多くの人に感動と夢を与えてくれますが、その一方で子供が元気よくハンドボールする姿をみるのは、実に楽しく未来・希望を感じさせます。現代では子供らしく活動できる環境が大変狭められており、私たち大人がハンドボールを通して子供たちに夢を持てる場を提供していくことは強化とともにハンドボール協会の大きな使命であります。

「一隅を照らす」とは伝教大師・最澄の言葉であるが「一隅をまもって千里を照らすという言葉があるように、一隅を確保してそれをしっかりやると全体が輝く。それぞれが与えられたことをしっかりやって小さなこともこつこつやる。そのことが全体に反映する」。私たちハンドボール関係者はハンドボールという一隅をもっている。その一隅にベストを尽くし、ハンドボールが輝くようそれぞれの立場で今後とも頑張っていきましょう。

第15回 JOCジュニアオリンピックカップ2006ハンドボール大会

順位

男子	優　勝	沖縄県選抜
	準優勝	愛知県選抜
	第3位	茨城県選抜
	第3位	大阪府選抜

※沖縄県選抜は3年ぶり4回目の優勝

女子	優　勝	岡山県選抜
	準優勝	熊本県選抜
	第3位	愛知県選抜
	第3位	大分県選抜

※岡山県選抜は初優勝

表彰選手

男子		女子	
オリンピック有望選手	瀬田　舜介　大阪府選抜・豊中十五中	オリンピック有望選手	安倍　千夏　岩手県選抜・松園中
			角南　　涼　岡山県選抜・下津井中
最優秀選手	又吉　裕喜　沖縄県選抜・神森中	最優秀選手	角南　　唯　岡山県選抜・下津井中
優秀選手	通事　亨介　沖縄県選抜・神森中	優秀選手	加陽　祐希　岡山県選抜・下津井中
	上里　健太　沖縄県選抜・神森中		水田亜莉沙　熊本県選抜・松橋中
	兵藤　正郡　愛知県選抜・平針中		徳永　鈴花　熊本県選抜・稜南中
	池辺　大貴　茨城県選抜・けやき台中		加藤　夕貴　愛知県選抜・御幸山中
	川崎　　凌　大阪府選抜・豊中十五中		麻生　千尋　大分県選抜・原川中
	藤江　恭輔　福井県選抜・光陽中		千葉樹里子　東京都選抜・東久留米西中
	高橋　圭介　秋田県選抜・湯沢南中		高木　祐花　山口県選抜・岩国中

第15回JOCジュニアオリンピックカップハンドボール大会を終えて

JOCジュニアオリンピックカップハンドボール大会事務局　逢阪 静男

第15回JOCジュニアオリンピックカップハンドボール大会が2006年12月24日～27日、大阪・堺市家原大池体育館と堺市金岡公園体育館で開催され、北は北海道から南は沖縄までの全国9ブロックより予選を勝ち抜いた男女32チームが熱戦を繰り広げた。

開会式は泉大津市立小津中学校吹奏楽部の友情演奏で始まり、次いで昨年度優勝の男子・茨城県選抜、女子・沖縄県選抜より優勝旗、優勝杯が返還され、準優勝の男子・愛知県選抜、女子・奈良県選抜から準優勝杯が返還された。そして日本オリンピック委員会の木村興二理事と植田辰哉・全日本男子バレーボール監督が、明日からの熱い戦いをする選手たちの激励に駆けつけて下さり、激励の言葉を述べられた。また、選手宣誓では地元堺選抜男子キャプテン堺市立上野芝中学校の藤川雄太君と女子キャプテン南八下中学校・福林有紀さんが力強い決意の言葉で締めくくった。

競技は第2日目より男子は家原大池体育館で、女子は金岡公園体育館で予選リーグが行われ、男子は沖縄県・茨城県・愛知県・大阪府選抜が、女子は熊本県・愛知県・大分県・岡山県選抜がそれぞれ準決勝に進出した。

女子準決勝、熊本県選抜対愛知県選抜の試合は、愛知4番・福田の連続得点でリードするが、熊本も林田、永田が得点を重ねて逆転、その後両チーム一歩も譲らず9－9で前半を終了。後半に入っても両者譲らずシーソーゲームを展開。終盤21分、熊本が堅い守りから得点を重ね勝負を決めた試合であった。

一方、Bコートでは大分県選抜対岡山県選抜の試合が行われ、岡山7番・角南唯の3点連取でスタートし、その後も得点を重ねる。大分も反撃するが、岡山が大きく引き離して前半を終了。後半に入っても岡山は攻撃の手を緩めず、角南涼、船田らが得点を重ね、追い上げる大分を引き離して快勝。

男子準決勝は、全国中学生大会で優勝したメンバーが中心の沖縄県選抜対茨城県選抜の試合であったが、沖縄14番・又吉らが次々と得点を重ね、茨城もよく頑張るが追いつかず、身体能力の高さが勝負を決めた試合であった。

一方、Bコートは昨年度優勝の愛知県選抜対大阪府選抜の試合で、愛知・兵藤、大阪・瀬田の打ち合いで始まり、一進一退のゲームが展開された。愛知14番・杉山の連続得点で3点差とし前半を折り返す。後半に入っても大阪がよく粘り、点差が開いてもまた追い上げ、結局終盤までもつれたが、前半の点差がひびき愛知県選抜が逃げ切った。

女子決勝戦は、熊本県選抜対岡山県選抜の試合となり、岡山・角南涼のシュートから始まり、角南唯もよく頑張り、得点差を開き、熊本も諫山、永田の反撃でよく粘ったが体力、身体能力に勝る岡山県選抜快勝の試合であった。

男子決勝は、身体能力が高くどこからでも得点できる選手の揃った沖縄県選抜対堅い守りと統率力のとれた愛知県選抜の試合であったが、前半4分、沖縄・又吉の連続得点から始まり、上里の得点で大きく引き離し、愛知も兵藤、杉山の活躍で追い上げようとするが、沖縄県選抜のスピードが勝った試合であった。

結果は、男子・沖縄県選抜が3年ぶり4回目、女子・岡山県選抜が初優勝を飾った。

今大会は15回の節目ということで、開会式の後、記念式典も行われ、功績を残していただいた堺市長・木原啓介様、元堺市教育長・高橋一徳様、株式会社アサカの朝香茂様に大阪ハンドボール協会・幸田良一会長より功労賞が授与された。

振り返ってみると第1回JOCジュニアオリンピックカップハンドボール大会が開催された年に生まれた子供たちが、この大会に出場したということで歴史を感じました。また、この大会に出場した選手が高校、大学、社会人になり、大会役員として運営に携わって、後輩たちの活躍ぶりを見守って下さったこと、また15年間役員、

審判として年末の忙しい中、クリスマスを家庭で迎えることなく、多くの方々に支えられて、ご尽力いただいたおかげでここまでレベルの高い大会に発展し成長できたのだと感謝の気持ちでいっぱいです。

なお、第16回大会もこの堺で開催することになりました。また参加チーム数も男女各24チーム、総数48チームで開催いたします。なお、各ブロックの出場枠は表のとおりです。選手の皆様は大きな目標を持って技と精神力を鍛え大きく成長され、ぜひこの大会に出場してください。また、大会関係者の皆様には、日本のハンドボール界の発展と子供たちの健全な育成のためご尽力、ご協力をいただきますようお願い申し上げます。ありがとうございました。

《第16回大会⇒偶数回大会》

	北海道	東北	関東	北信越	東海	近畿	中国	四国	九州	開催地	前年度優勝地区	計
男子	1	3	4	2	2	3	2	1	4	1	1	24
女子	1	2	4	2	2	3	2	2	4	1	1	24

《第17回大会⇒奇数回大会》

	北海道	東北	関東	北信越	東海	近畿	中国	四国	九州	開催地	前年度優勝地区	計
男子	1	2	4	2	2	3	2	2	4	1	1	24
女子	1	3	4	2	2	3	2	1	4	1	1	24

（実施案） 3チームで予選リーグ⇒各リーグ1位チームの8チームで決勝トーナメント
予選リーグ→3会場2日間⇒1日目は午前中に開会式、午後から試合
決勝トーナメント→1会場2日間⇒最終日は決勝戦のみ

女子優勝チーム監督のコメント

JOCジュニアオリンピックカップを終えて

岡山県選抜女子監督　西浪 聰郎

今年のチームは夏の全国大会準優勝の下津井中のメンバー中心で、岡山県内4校からの選抜チームです。「なんとか日本一にしてやりたい」と8月の中国地区予選後は玉野光南高校との合同練習や、他県の選抜チームとの練習試合や合宿を繰り返し行ってきました。本年度から県の体育協会からの援助があり、充実した練習を行うことができました。しかし、練習をこなすたびに課題が山積みになっていきました。

特に選手たちに徹底してきたことは、「考えてプレーしよう」ということでした。選手たちのプレーを見て「多くのプレーを知っているにも関わらず、うまく使いこなせていない」と感じたからです。中学生にとって、状況を判断し、その中で最良のプランを選択するという厳しい課題です。2対2の攻防など基本的な練習を繰り返し行うことで、判断スピードを早くしプレーの選択肢が増えるよう指導しました。その練習の成果か、本大会の予選リーグで、相手に先行された場面でも選手たちは冷静に判断し、焦ることなくベストなプレーをすることができていました。また、コート内の選手だけでなくベンチの選手も、それぞれに役割を理解し、チーム全体で一戦一戦大切に戦いきることができたことも勝因であると思います。

このJOCジュニアオリンピックカップハンドボール大会で優勝できたのは、高い意識をもち続け、試合で全

写真提供：スポーツイベント社

力を出し切った選手、優秀な選手を育ててくださった各顧問の先生方、その選手たちの力をさらに引き出してくださった選抜チームのスタッフ、応援してくださった方々すべてのおかげだと考えております。今大会に関わってくださった皆様に感謝したいと思います。そして、将来、選手たちが岡山県の代表として国体に出場し活躍してくれることを楽しみにしています。

女子優勝チーム 選手のコメント

JOCを振り返って ～桃太郎侍の復活～

岡山県選抜　角南　涼

「桃太郎さん、桃太郎さん、おこしにつけたキビ団子、1つ私にくださいな」

私達、岡山選抜は優勝しました。今までの辛かったこと、悩んだこと、苦しかったことが全て喜びに変わり、本当に最高の気分でした。

振り返ってみれば、春の全国大会を終えてから、私達はたくさんの壁にぶつかりました。最初の壁は、春全中で優勝したことをきっかけに、チームが壊れ、自分達自身も壊れてしまったことです。私達と先生との衝突から先生がチームを離れてしまい、1ヶ月もの間、練習ができなくなったことが原因でした。もう1度、「春夏連覇」という目標を立て、再出発しましたが、すっきりしないまま迎えた夏全中。再び立った念願のセンターコートは、焦りだけが溢れていました。今でも泣き崩れたことしか覚えていません。

9月に入り、私達は新たな壁にぶつかりました。

それは、夏の負けを乗り越えられない気持ちと進路決定の迷いでした。

しかし、一人一人の進路が少しずつ決定していく中で、また夏の負けを素直に振り返っていく中で、私達の中で何かが変わってきたような気がします。もう1度、あのセンターコートで試合がしたい！勝ちたい！と自然に思えました。練習の前に練習をして、練習の後にも練習をして、家に帰っても練習をする毎日。自分達の本来の自信が戻ってきました。

また、選抜チームとして他校のメンバーが入って来てくれたことも新鮮な気持ちがしました。私達は、最高の仲間と共に、自信満々で大会に臨んだのです。

大会を振り返ると、練習してきたことが試合できちんと出すことができました。しかしなによりも、シュートを打つことが楽しい、みんなといることが楽しい、コートに立ってプレーすることが楽しい、そう思えたことが本当に最高でした。

試合終了のホイッスルが鳴ると同時に、岡山選抜の戦いは終わります。みんなお別れになります。負けたことで大きく成長した岡山選抜の仲間、ここまで導いてくださった監督、コーチ、いつも支えてくれた家族へ言葉で伝え切れないほどの「ありがとう」。

大好きな岡山選抜とハンドボール。みんなと勝ち取った全国制覇。みんなと過ごした5ヶ月間。私達のセンターコート。私は絶対に忘れません。

本当にありがとうございました。

岡山選抜最高じゃけん！

私達のために大会を運営してくださった、大会関係者のみなさんに大変感謝しています。思い出に残る大会をありがとうございました。

写真提供：スポーツイベント社

男子優勝チーム 監督のコメント 「最高の舞台をありがとう」

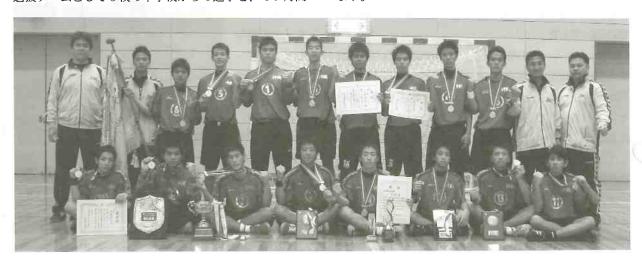
沖縄県選抜男子監督　小波津 周史（神森中学校教諭）

写真提供：スポーツイベント社

この度は、第15回JOCジュニアオリンピックカップにおいて、3年ぶり4回目の優勝ができたことを、とてもうれしく思っています。大会を振り返ると、本当に選手1人1人が自分の役割をしっかり把握し、コートの中で自分のパフォーマンスを100％出せたことが勝因かと思っています。このようなゲームが出来たのも、週4回の練習と、全国でも強豪の興南高校や那覇西高校などの高校生との練習試合で先輩達の胸を借り、1つの目標に向かいチーム一丸となって取り組めた成果だと思います。また、選抜チームとして6校の中学校からの選手を、4ヶ月間で1つのチームに仕上げる事ができた背景には、嶺井コーチ（沖縄県ハンドボール協会　強化担当・浦添市民体育館）、新川先生（具志川中）、福地先生（寄宮中）の強力なスタッフ陣のおかげだと感謝しています。その他、この全国大会に臨むに当たって、沖縄県ハンドボール協会・中体連ハンドボール専門部・保護者の協力・支援等、本当にありがとうございました。

私にとって、このような全国制覇という貴重な経験が出来たのも、16名の選手に巡り会える事ができたからです。私を指導者として、またひとつ成長させてくれた選手1人1人に感謝の気持ちを込めて言葉を贈ります。「ありがとう。」

これから、選手達は高校へ進学し、また新たな目標に向けて頑張っていくと思いますが、夢を大きく持ち、1人でも多くの選手が全日本チームや、世界で活躍することを期待しています。

最後に、長年にわたり大会を開催・運営して頂いた日本ハンドボール協会をはじめ、大阪府ハンドボール協会・堺市ハンドボール協会の皆様、選手・スタッフが気持ちよく大会に臨むことが出来たことを心より感謝致します。

第58回全日本総合選手権大会

愛知県ハンドボール協会設立60周年記念事業

写真提供4点とも：スポーツイベント社

総評 大会を終えて

愛知県ハンドボール協会理事長　村木 啓作

愛知県ハンドボール協会設立60周年記念事業「平成18年度第58回全日本総合ハンドボール選手権大会」の開催にあたり、ご支援、ご協力頂きました多くの関係団体の皆様、又会場に足を運んでくださいましたファンの皆様、おかげを待ちまして無事に大会を終了することができました。愛知県協会を代表して感謝申し上げます。

本年度は協会設立60年の節目の年でもあり、記念事業の一環としてこの大会を開催させていただくことになりました。

くしくも、全日本総合選手権大会は第1回大会が昭和25年に愛知県一宮市で開催されています。当時の参加チームは男子14チーム、女子3チームでした。愛知県からは男子3チームが出場しましたが、残念ながら1回戦で敗退しました。

男子の決勝は日体「桜」対全文理大で6対5で日体「桜」が優勝しています。女子では愛知クラブが山梨師範クラブを4対2で破って、初めての愛知県チーム全国制覇の一番乗りを果たしています。

愛知県はこの大会前までに全国大会の優勝回数が149回となっていました。何とかこの大会で150勝の大台にと協会関係者も思っていました。幸いなことに男子大同特殊鋼が、安定した力を発揮し5年ぶり11回目優勝の栄を勝ち取ってくれました。協会にとっても願ってもない年になることができました。

大会を振り返ってみますと、開催時期が12月末という事、又会場が2会場必要ということで、競技役員の確保に頭を悩ますことになりましたが、学生連盟の応援で何とかクリアすることができました。

大会運営に関してのノウハウはこれまでの開催実績から有していましたから、今回の大会も皆様方から平均点ぐらいは何とかもらえたのでないかと思っています。

しかしながら今後の追求すべき大きな課題は、マネージメントという観点に立っての大会運営でないかと考えます。

そういう観点に立って振り返ってみますと、お粗末の一語では無かったかと思います。集客の努力はされたのか、見に来て頂いた方々に果たして満足して帰ってもらえたのか、収益努力はなされていたのか…です。

収入面で見てみると、従来からの参加料、広告料、入場料の3部門。その内訳は、おおよそ1対1対1です。本来は入場料収益だけで大会を運営していくぐらいのつもりでなくてはいけないのでしょう。収益を上げるべく集客努力、そのための施策。大会グッズの作成・販売、魅力有る大会プログラムの作成、次の大会にも足を運んでもらえる企画…。顧客満足度は果たしてどれくらいであったのでしょうか。なすべき事は山のようにあります。

この反省を生かして、今後の大会にどれだけできるか未知数ですが、その努力と、人材の育成、確保をしていかなければ、大きく飛躍していくことは難しいと感じます。

嫌な言葉ですが「マイナー競技」から脱する競技にはなれないと考えます。

さて本年9月には愛知県豊田市で北京オリンピック男子アジア予選の開催が決まっています。愛知県協会といたしましても初めての大きな国際大会であり、不安はたくさんありますが、多くの方々のご協力、ご支援でなんとしても成功裡に終わるよう最大限の力を発揮いたす所存であります。そして悲願のオリンピック出場を皆様方と一緒にお祝いできることを祈念し大会総評に代えさせて頂きます。

写真提供：スポーツイベント社

男子優勝　大同特殊鋼（5年ぶり11回目）

監督　カン・ジェオン

まず最初に第58回全日本総合ハンドボール選手権大会の優勝に対し、応援して下さった会社関係者の皆様、応援団の皆様、また大会運営の関係者の方々にお礼申し上げます。有難うございました。

本大会1週間前までのチーム状況を考えると、大会前にアジア大会が開催された事により、レギュラーメンバーがほとんど抜け、チーム全体での調整が出来ない状態であり不安な面がありました。

しかしながらチームに残っているベテラン・若手が厳しい練習に耐えてくれたお陰でレギュラーメンバーも危機感を持ち、日本に帰って来てから体力的・戦術的にもスムーズなチーム調整ができる事が出来ました。

実際に決勝のコートの上でも新人の浦田は結果を出す事が出来ましたし、その他の選手もしっかりと自分達の仕事をこなしてくれたと思います。

写真提供：スポーツイベント社

これから日本リーグの終盤に入っていきますが、全ての面において現状より更にレベルアップしプレーオフに臨みたいと思っておりますので、これからもご声援の程宜しくお願い致します。

キャプテン　松林 克明

愛知県ハンドボール協会設立60周年記念事業、また大同特殊鋼創立90周年の年に第58回全日本総合ハンドボール選手権大会を優勝の二文字で飾ることができ、欣快の至りであります。

本大会の直前にカタールで行われたアジア大会にレギュラーメンバーがほとんど抜け、満足できる調整もできないままに臨んだ大会でしたが、残ったメンバーが厳しい練習を耐え抜きチームを支えた結果が優勝に導いたと思います。

初戦の日体大戦こそ大学生の勢い・最後まであきらめない姿勢に後半途中まで解らない試合となりましたが、続く準決勝のトヨタ紡織戦は得意のDFから速攻が決まり前半で16－10と大きくリードし、安定した試合運びで勝利を収める事ができました。翌日の決勝戦は昨年と同じく大崎電気、前年の対戦では苦汁を舐めた相手であり、また地元名古屋で絶対に負けるわけにはいきませんでした。そういった気持ちがチーム全員から感じましたし、特にMVPにも選ばれたGK高木選手、17得点を叩き出した白選手からはひしひしと伝わってきました。試合は準決勝と同じく前半からDFが良く機能し、速攻で効果的に得点を上げ前半終了時20－13とほぼ雌雄を決することができました。後半に入り大崎電気の怒涛の反撃もありましたが、決して慌てることなく39－34で5年ぶり11回目の優勝を飾ることができました。

しかし、ミスも多く課題が多く残る大会でもありました。この反省をこれからのトレーニングで改善し、また、この結果に奢ること無くもう一度基礎練習から取り組み、更にレベルアップを図っていきます。

最後になりましたが、今回の優勝にあたり会社関係者や応援団の方々、またフェニックスサポーターズクラブの皆さんには多大なご支援、ご声援を頂き本当にありがとうございました。今後も更なる応援をよろしくお願い致します。

写真提供：スポーツイベント社

女子優勝 オムロン （2年連続10回目）

監督　ファン・キョンヨン

第58回全日本総合選手権で2年連続10回目の優勝を達成する事が出来ました。

選手と共に感激の瞬間を味わうと共にハンドボールに専念出来る環境を整えていただいた皆様方に感謝しております。

学生、クラブと日本リーグチームが真の日本一を決定する大会で2年連続優勝できました事は光栄に感じています。

アジア競技大会の為に主力選手の6名が抜け、本大会に向けた組織練習はあまり出来ませんでしたが、残された選手が危機感を持って練習に取り組んでくれ、良いムードで迎え入れた事に感謝しています。

大会を振り返り準々決勝でシャトレーゼハンドボールクラブに勝利、そして準決勝の北國銀行では不安視していた組織プレーが徹底出来ず1点差で勝利し、逆にその苦戦がソニーセミコンダクタ九州との決勝戦で緊張感を持って戦えたと思います。

優勝という嬉しい結果で終了致しましたが、課題を沢山残した大会でもありました。敵は選手の心の中にある、という事を全員が意思統一する事が一番の課題だと思います。先ずはチーム全体の精神面の強化を強め、チームと個人が戦況に応じたゲーム運営と的確な判断が出来るように浸透させせなければならないと思っています。

写真提供：スポーツイベント社

全日本総合大会の優勝を糧として、日本リーグへもつなげたいと思っております。引き続きご声援宜しくお願いいたします。

キャプテン　佐久川ひとみ

写真提供：スポーツイベント社

昨年の全日本総合選手権大会に引き続いて二連覇を達成出来ました事を心から嬉しく思います。

大会を直前に控えながら、アジア競技大会で6名のメンバーが抜けたために、短期間の練習に不安もありましたが、残ったメンバーがしっかりとチームを支えてくれたおかげで全員が強い気持ちをもって大会に臨む事が出来ました。

私たちが最も力を入れているDFでリズムをつかんで速攻、という意識をもって試合に入りましたが、準決勝の北國銀行戦では相手の勢いを止める事が出来ず、最終的に1点差で勝利しました。確実性のないプレーでは絶対に勝てない、と選手個々が危機感をもって臨んだ決勝戦では、守りから速攻という展開で流れをつかめたと思います。

全試合を通して60分間の中でいい時と悪い時の波があり、また競り合いになった時に確実なプレーが出来なかった事がチーム、個人として反省、課題に残りました。緊張感の中でこそ個々が力を発揮出来るよう、精神面の強化と安定した試合を心がけていきたいと思います。

日ごろより素晴らしい環境を作っていただき、またご支援、ご声援いただいている皆様にも感謝の気持ちをもって、今後も取り組んでまいります。引き続きご声援の程宜しくお願いいたします。

報告 第15回 アジア競技大会

開催期間：
2006年12月3日～14日
開 催 国：カタール（ドーハ）
最終順位：女子3位
（日本）　　男子6位

女子 第15回アジア競技大会（2006/ドーハ）の報告

女子ナショナルチームコーチ
藤本　元

1．大会に向けての準備

アジア競技大会に向けた準備は、大阪トレーニング・キャンプとジャパン・カップ（11月5日～12日）、及びアジア競技大会開催地での11日間（11月26日～12月6日）を利用して行った。

11月9日～12日に大阪市住吉スポーツセンターで開催されたジャパン・カップには、日本チームの他に、中国チーム、韓国チーム、及び日本リーグ選抜チームが参加した。日本チームとして、海外チーム所属選手4名が国内リーグの日程の関係で参加できなかったため、日本の将来を見据えて4名の若手選手を新たに招集した。結果は以下の通りである。

日本　33－19　日本リーグ選抜
日本　20－17　韓国
日本　30－30　中国

日本チームが2勝1分で優勝（中国チームとの得失点差により）

特に、アジア大会に向かうチームにとして成果となったのは、オリンピックを控え重点的な強化を実施している中国と引き分けたことである。中国とは、2005年の世界選手権では6点差、昨年のアジア選手権では2点差で負けていた。約1年半かけて、ベルト・バウワー監督がトレーニングしてきたチーム戦術が全ての選手に浸透し、チームとしても凝集性が高まってきていることを実感した。

ただし、この大会の最終戦の終盤に司令塔でエースの田中美音子選手が肩を負傷し、アジア競技大会に出場できないというアクシデントがあった。

2．現地でのコンディショニング

チームは11月26日にドーハに入り、試合開始日の12月7日まで11日間の準備期間があった。

この準備期間に、時差調整、戦術的な準備、試合会場の諸条件の確認、フィジカル面のトレーニングなどを行うことができた。特に、昨年の8月より、重点強化項目としているウエイトトレーニングを、選手個人へアドバイスを行いながら、計画的に効果的に実施することができた。

ただし、試合まで時間があったため、メンタル面でのコンディショニングが難しかった。

3．試合結果

ドーハ・アジア大会の予選ラウンドは、チャイニーズタイペイ、タイ、韓国と同一グループだった。準決勝に進むには、このグループで2位以上になることが条件であった。

■予選ラウンド　第1試合（12月7日）
日本（31－20）チャイニーズタイペイ

初戦の相手はチャイニーズタイペイであった。前半、チャイニーズタイペイの高くアグレッシブなディフェンスと機動力を活かしたオフェンスに対し対応が遅れ、リズムをつかむことができなかったが、後半、徐々にチャイニーズタイペイの特徴をつかみ、最終的に31対20で試合を終了した。現地での長い準備期間が試合での集中力に影響を及ぼしているようだったが、試合中のより早い適応が必要だった。

■予選ラウンド　第2試合（12月9日）
日本（40－13）タイ

第2戦は日本の岡本大監督率いるタイとの対戦であった。日本は、前半5分から11連続得点で一気にリードを奪い試合を決定づけ、40対13でタイムアップを迎えた。韓国もタイとチャイニーズタイペイに勝利したため、この時点で日本と韓国の準決勝出場が決定した。

■予選ラウンド　第3戦（12月10日）
日本（21－28）韓国

予選ラウンドの最終戦は、韓国との戦いであった。前半20分まで7対10と粘りながら、その後の5分間で韓国に6ゴールを奪われ、日本はわずか1得点にとどまった。この場面が試合での一番のポイントとなった。後半は課題を修正し、12対12の同点であったが、合計21対28の7点差で試合を終了した。前半のポイントでバウワー監督がベンチから行った積極的な防御の指示に戸惑い、対応できず、ペースを乱してしまった。

■準決勝　（12月11日）
日本（28－32）カザフスタン

準決勝の相手は、体格面で大きく上回るカザフスタンであった。カザフスタンとは、昨年6月のアジア選手権で対戦し、勝利しているが、スタッフ及び選手を従来のメンバーに戻し、前回とは全く別の戦い方で臨んできた。攻撃では、ポストを2名おき、バックコートプレーヤーとのコンビネーションを丁寧に行い、防御では、身長を活かし、ディスタンスシュートのブロックを狙っていた。日本は、ライン際の攻防をいかにしのぐかをこの戦いのキーポイントとしていた。しかし、ディスタンスシュートとポストプレーに対応できず、また、長い時間防御していても最終的にフリースローなどでカザフスタンに得点を奪われ、リズムをつかむことができなかった。

終始カザフスタンに３～４点のリード奪われたまま、28 対 32 で試合終了となった。試合終了後、宿舎において、現在抱える問題点について、バウワー監督と選手との間で率直な対話を行った。

■３位決定戦（12 月 13 日）

日本（25 － 22）中国

銅メダルをかけた最終戦は中国との戦いとなった。中国は体格面で日本を大きく上回る。しかし、前述の通り、大会における徐々に中国との点差は詰まってきていた。試合開始早々、日本チームは４連続得点その後も、終始３～４点のリードを保ち、16 対 13 で前半を折り返した。後半、日本は３連取で 19 対 13 の６点差をつけたが、その後中国の高く厚い守りに、思ったように得点をすることができず、後半20 分には 21 対 21 と同点になった。ここで試合中盤から徹底していた戦術の中で、ディスタンスシュートを決め、流れを引き戻し、25 対 22 の３点差で試合終了を迎えた。

この試合では、崩れそうな場面で、選手全員の集中力を持って、試合を成立させた。また、ゴールキーパーの堅守が、日本に安定感をもたらした。日本として成長の見られるゲームとなった。

４．大会の総評と今後の課題

まず、ドーハ・アジア大会をチームとして戦いきり、銅メダルを獲得することによって、チームは、国同士の真の戦いでしか得ることのできない貴重な経験をした。この経験は、2007 年度のオリンピック予選向けて、かけがえのないものとなるであろう。

この大会で、一番のポイントとなったのは、スタッフと選手、そして、選手同士の対話である。外国人監督との対話は、常に困難がつきまとう。監督側からいつでも質問するように促されても、選手は意見を言い、解決策を見つけていく、いわゆる『対話』に慣れていない。今回はさらに、今までゲームやチームを成立させてきたリーダーである田中美音子選手を欠いた。カザフスタンとの敗戦で、選手自身が持っていた監督のチームやゲームの考え方に関する疑問や不安を対話しなければならない状況に直面した。監督との対話を通し、自らの責任を自覚し、それをもとにした選手同士の対話が行われた。当たり前のことであるが、決して、簡単なことではない。

今後の課題としては、昨年８月より取り組んでいる筋力強化を徹底すること、特に上半身の筋力強化があげられる。しかし、一番重要なのは、バウワー監督が浸透させた戦術をベースにし、ゲーム分析をもとに対話し、戦い方を徹底すること、そして、実際のゲームで自ら考え、ベンチとまた選手同士で対話し、相手チームに戦術を適応させ、勝利をものにする経験をつむことである。

女子　アジア競技大会を終えて

女子キャプテン
佐久川 ひとみ

今回のアジア競技大会では絶対にメダルを獲得しようと強い気持ちを持って大会に臨みました。07 年に行われる北京オリンピック予選の自信にしたかった事もありましたし、チームの要である田中（美）選手が肩のアクシデントで大会直前に出場出来ない事となり、田中選手のためにもメダルを獲りたいという強い思いを持って試合に臨みました。

予選リーグのチャイニーズタイペイとタイ戦では前半なかなか相手のディフェンスを崩せず得点することが出来ませんでしたが、後半に入り速攻等でリズムを作ることができ勢いに乗って２連勝というスタートを切ることが出来ました。

しかし、私たちの照準は同じグループの対韓国戦しかありませんでした。試合開始から激しい攻防となり前半の中盤までは緊迫した内容でしたが、日本がシュートミスを連発し逆速攻で得点され７点差で前半を終了、後半に入っても７点差を詰める事が出来ず敗れてしまいました。

予選リーグでＢグループの２位という結果になり、Ａグループ１位のカザフスタンとの戦いになりました。カザフスタンに勝利する事で優勝戦の可能性がありましたので積極的な攻撃で果敢に攻めましたが高さのある DF ラインを崩せずミスから逆速攻、ロングシュート等で得点を許し、最終的には４点差で敗れ３位決定戦に進む事になりました。

韓国、カザフスタンの敗戦を分析して課題修正し、中国戦に臨みました。積極的なディフェンスを徹底し、相手の攻撃をつぶしにかかり、又、攻撃では個々が積極的にシュートを狙い組織プレーで中国を圧倒し、25 － 22 で勝利でき２大会ぶりに銅メダルを獲得する事が出来ました。

全試合の反省課題として勝敗を分ける大事な時間帯に基本的なミスで終わってしまった事が最大の反省課題であり、今

後の私達の強化する部分を再確認いたしました。しかし、中国に勝利出来た事はチーム、個人にとっても大きな自信につながりました。この自信を必ず北京オリンピック予選に繋げるように努力していきます。

日本代表がアジア、世界と戦える環境を作ってくださった関係各位と日本で温かい応援を頂いた皆様に心から感謝申し上げます。今後もご声援いただきますように宜しくお願いいたします。ありがとうございました。

男子　ドーハ2006　アジア大会の分析

男子ナショナルチーム監督
イビツァ・リマニッチ

アジア大会の準備は、大阪トレーニング・キャンプ（11月5日～12日）とジャパン・カップから始まった。第2段階のクロアチア合宿（11月14日～28日）を経て、アジア大会（11月29日～12月15日）となった。

11月9日～12日に開催されたジャパン・カップは、ローランド・ネメス（アシスタント・コーチ）とともにナショナル・チームを任せられてから初めての公式試合だった。

アジア大会前、各国代表チーム及びクロアチア・リーグのトップ・チームを相手に、いくつかの試合を行った。

- ●ナショナル・チーム公式試合：韓国（B)、中国、スロベニア
- ●ナショナル・チーム非公式試合：イタリア（2試合)、カタール
- ●クロアチア1部リーグ：Dubrava-Zagreb, Umag-Umag, Porec-Porec, Zamet-Rijeka
- ●ジャパン・カップにおける対日本リーグ選抜

全体として、我々がプレーした11試合のうち8試合は勝利し、3試合は負けであった。

ジャパン・カップの対韓国（B）と中国戦、それからクロアチアでのイタリア戦のように、いくつかの試合では我々は実に良い戦いをしたが、ベストとなる公式試合は対スロベニア戦だった。この試合を35－27で我々が勝利するとは、大きな驚きであった。そして我々、特に宮﨑、門山、豊田、坪根は、新聞紙上で高い評価を得た。スロベニアといえば、直近の2回オリンピックに出場しており、2004年のヨーロッパ選手権では銀メダルを受賞している。

試合全体を通して我々は主に3：2：1ディフェンスでプレーしたが、5：1と6：0も試みた。あらゆる備えと試合の成果からアジア大会へ向かう準備が整った。

ドーハの予選ラウンドは、ウズベキスタン、UAE、サウジ・アラビアのグループだった。本戦ラウンドでの楽なグループに入るためには、我々はグループ内で1位になるべきだった。ウズベキスタン、UAEは良い試合をし、サウジ・アラビアには26－25で負けてしまった。この試合では、サイドと6メートルラインからのシュートに問題があり、本来は良いはずのディフェンスとGKの連携にも問題があった。そして、とてもラッキーでなかったのは、カタールの審判のいくつかの判定であった。

我々はグループ2位だったので、本戦ラウンドではクウェート、韓国、バーレーンのグループとなった。アジア大会開始時点より、最終4チームに残ることが望まれているのかたやすく理解できた。それは、日本と韓国ではなかった。

本戦ラウンドの第一試合、対クウェート戦は負けた。我々は良いプレーが出来なかった。しかしながら、もし我々が良いプレーをしたとしてもクウェートには勝つことが出来なかっただろう。

クウェート戦、UAE戦、サウジ戦の50分間は、主将の中川を欠いてプレーした。（対サウジ戦で歯を2本折ってしまったため。）

対韓国戦は、グループ2位とセミ・ファイナル進出を賭けたキーポイントとなる試合だった。勝たなければならない試合だったし、セミ・ファイナルまでもう少しのところであった。不運にも26－26で引き分けたが、勝つ可能性は充分にあった。試合で最も重要な時間帯に、経験、勇気、クオリティと冷静な頭脳を持ち合わせたプレーヤーが我々に必要だったことは明白だ。我々は対バーレーン戦で勝利したが、韓国が得失点差で上回りセミ・ファイナルには進出できなかった。

順位決定戦でシリアと対戦したが、試合に勝とうにもほとんど話しにならず、決勝戦でのカタール

もしかり、そして銅メダルを賭けた韓国も同様だった。今更コメントは必要ないほどに…。

結論として：

私たち（ローランドと私）は、正しい過程を歩んでいると思う。新生日本代表チームは、3：2：1ディフェンスの導入により将来さらに強化されるだろう。門山、富田、中畠、志水のように若い選手たちは、例えば経験豊富な中川、宮﨑、坪根といった選手たちと同様に将来とても重要となる。韓国戦は、我々日本がアジア最強のチームと戦えること、また、練習を積みベストメンバーがコートに立てるならば９月の北京オリンピック予選では更に進歩し、最高の結果を出せることを示した。まだコミュニケーションに少し問題があるがこれは障害ではないものにしなければならない。このことは私に対する、また選手たちへの挑戦でもある。我々は、何かで同意できないことがあっても肯定的に考えるようにするべきだ。

最後に、全ての選手たち、日本代表チーム・スタッフ、日本ハンドボール協会、特に市原さん、蒲生さん、私のアシスタント・コーチであるローランド、サポーターとスポンサーの皆さん、ナショナル・チームのファンの皆さんにとって幸せな2007年であることを望みます。

男子　カタール・ドーハ　アジア大会に参加して

男子キャプテン
中川 善雄

カタールのドーハで開催されたアジア大会には北京オリンピックアジア予選の前哨戦と位置づけ大会には臨んだ。

アジア大会前に日本で開催されたジャパンカップでは新チームになってからの初の公式戦という事もあり、チーム全員がこれまでの合宿の成果を出す良い機会になったと思う。

ジャパンカップ直後、チームはクロアチアに移動し合宿を組んだ。ジャパンカップの優勝がチーム自体に自信を持たせたのか、クロアチアでのテストマッチは収穫の多いものになったと思う。そして若手が自信をつけた事によりチーム内でも良い意味で活性化に繋がった。多少の怪我人は出たものの良いコンディションでカタールに移動。ドーハは気候も良く昼間であればＴシャツ１枚で過ごせるくらい丁度良い気温であった。

大会２戦目はサウジアラビア。日本が勝ち上がって行くためにはこの試合が今後を左右する大事な１番だった。両国ともグループ１位での通過が目標でもあり、それはチームの個々も良く認識する所だった。個人的には試合開始早々、負傷によりコートに最後まで立っていられなかった事がとても残念だった。試合には負けたものの、今大会のいろんな意味での“基準”を知る事ができたゲームだった。日本は予選を２位で通過し、次のグループでは韓国、クウェート、バーレーンとの対戦が決まった。グループ２位までが、次のラウンドに進む。初戦のクウェートではチームとして戦えなかった事が残念であり、乗り越えなければいけない“壁”も生まれた。つづく韓国戦は最後まで一進一退の攻防戦が続き、特に若手の奮闘もあり、今までの合宿の成果が見られた場面もあった。ただ、ここ一番でのシュートミスは今後の課題であり、アテネオリンピック予選がそうであったように１点の重みをチーム全員で考える必要があるし、経験者は伝えていく必要があると感じた。

残念ながら次の決勝ラウンドには進む事が出来ず、メダル獲得の道がこの時点で閉ざされる事になったが、それ以上に今大会はなんともいえない気持ちで一杯だった。

日本で応援、サポートして頂いている人達に対し本当に本当に申し訳ない気持ちで、そして結果に対しても本当に残念であった。

北京オリンピック予選は今年の９月。残された時間は本当に少ないが、今回の結果をチーム一人一人が真に受け止め、次にどう繋げていくか？を考えて行きたい。今大会は精神的な部分でチームが成長した処があった。今後勝ち上がって行く為には“勝者の精神”というものが一つのキーワードになってくると思う。心のトレーニングは練習ではなく試合で成長することが多い。この経験を生かし、北京オリンピック予選では最高の日本代表が見せれる様努力していきたい。

最後に応援していただいたファンの方々、サポートして頂いた関係者、日本協会の方々、家族にこの場を借りてお礼を申し上げます。ありがとうございました。

第31回 日本ハンドボールリーグ プレーオフ2006-2007

JAPAN HANDBALL LEAGUE
31ST ANA CUP PLAY OFF
SUPER STAGE IN KOMAZAWA
SEASON 2006-2007

大会日程表

月・日(曜日)	試合開始時間	組み合わせ	テレビ神奈川放送時間
3月17日 (土曜日) 開場：12:00～	13:00～	(1)女子準決勝：リーグ2位VSリーグ3位	16:35～17:50
	15:00～	(2)男子準決勝：リーグ1位VSリーグ4位	18:30～20:55
	17:00～	(3)男子準決勝：リーグ2位VSリーグ3位	
3月18日 (日曜日) 開場：12:00～	13:00～	女子決勝：リーグ1位VS(1)の勝者	19:00～21:50
	15:15～	男子決勝：(2)の勝者VS(3)の勝者	

※[J-SPORTS]でも放送を予定しています。

新たにアリーナエリア券登場！

チケットのお買い求めは
Pコード **808-725**

2月10日 前売券 発売開始！

★全国の**チケットぴあ**のお店
★コンビニエンスストア
○ファミリーマート
○サークルK
○サンクス

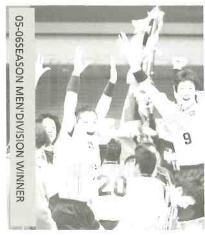
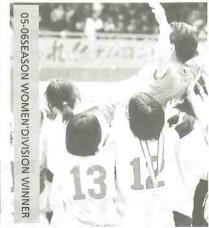
※店内にチケットぴあ発券機のあるお店で購入できます。

入場料金

《対　象》	《前売券》	《当日券》
アリーナエリア	2,300円	2,500円
一般	1,800円	2,000円
大学生	1,000円	1,300円
中高生	800円	1,000円
中高生5人券	3,000円	前売券のみ

お客様へ

※日付指定券となっておりますので、ご購入の際はご注意ください。
※当日、一度ご入場いただくと再入場は不可となります。
※当日券は販売いたします。但し満席になり次第、当日券販売は終了させていただきます。

お問い合わせ先：日本ハンドボールリーグ委員会事務局
TEL:03-3481-2494

男子：昨シーズン覇者：大同特殊鋼　　女子：昨シーズン覇者：オムロン

プレーオフ会場案内

場所：駒沢体育館(東京)　東京都世田谷区駒沢公園1-1
(TEL:03-3421-6199)
最寄駅：東急田園都市線駒沢大学駅　徒歩15分

最新のプレーオフ情報は日本ハンドボールリーグHPをご覧ください。
http://www.jhl.handball.jp/

日本トップリーグ連携機構
日本トップリーグ連携機構は9つの競技団体が集結し、国際競技力の向上と、日本のチームゲーム復活を目的に設立された機構です。

～アイデア勝負の時代だ～

企画・広報委員
早川　文司

フリースロー
Free Throw

北京オリンピックを目指すアジア予選があと半年を切った。これからは信じられないくらいのスピードで「豊田」が、「カザフスタン」が迫ってくるだろう。皆さんと共に長い間待ち望んだ朗報を待ちたい。

ところで、昨年末のドーハ・アジア大会で銀メダルを獲得、北京行きキップを手にしたホッケー女子日本代表が強力なバックアップを得た。大手飲料メーカーとのオフィシャルスポンサー契約だ。

アジア大会前に契約が満了し、五輪球技団体で唯一スポンサーなしとなったが、五輪出場権を獲得後、わずか4日後にうれしい契約が出来たという。ホッケー協会は「北京へ向け、朝日が昇るような気持ち」と満面の笑みを浮かべたというが、その気持ちは手に取るように理解できる。

まさに五輪キップ効果と言ってよさそうだが、実力に加え、競技団体として体力がついたことで、世界へいどむ支援体制が整ったと言えよう。

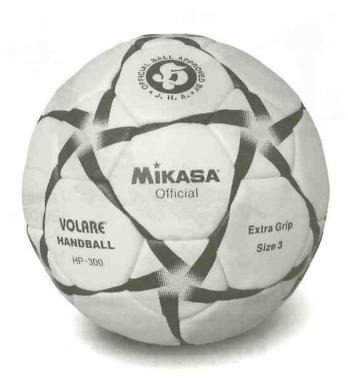
その日本ホッケー協会がまたひとつ、積極アピール作戦に乗り出している。女子代表の愛称公募を打ち上げたのだ。どんな名称になるか楽しみだ。

愛称といえばサッカーの女子代表「なでしこジャパン」がすぐ浮かぶが、さらに日本フットサルリーグも「Ｆリーグ」の愛称で9月からの今季リーグに臨むことになった。

ホッケー協会は「五輪効果」に乗って一気に認知度を高め、愛称をつけてイメージアップを図り、存在性と期待度を盛り上げていこうと言うものだが、ハンドボール界からすればうらやましいことこの上ない。

“千載一遇”のチャンスとばかり、すばやい行動と、アイデア作戦はわれわれも大いに見習うべき点が多いのではあるまいか。

最近では行政が「すぐやる課」などを設けたりして住民への対応に努めているが、スポーツ団体も見ているだけでは何も動かない。まずは、頭脳を集めて、いろいろなアイデアを出し合い、すぐに実行に移すことが肝心なのである。手をこまねいていては、何も始まらないことは、賢明な皆さんは百も承知の上であると思う。

それぞれが大いに意見を出し合い、議論を沸騰させて、ハンドボールという存在感をアピールすることが重要なのである。ホッケーのアイデア作戦に負けないハンドボール・アピール作戦をひねり出したい。

スポーツ安全保険

1000万人のガンバリサポート!!

対象となる事故　グループ活動中の事故　往復中の事故

保険期間　平成19年4月1日午前0時より 翌年3月31日午後12時まで （申込受付は平成19年3月から）

5名以上の団体でご加入ください

加入区分・掛金・補償金額

団体	加入区分		掛金（※）	対象範囲	保険金額 傷害保険 死亡	後遺障害（最高）	入院（日額） 実治療日数4日以上	通院（日額） 実治療日数4日以上	賠償責任保険（支払限度額）	共済見舞金
子どもの団体	A	中学生以下の子ども スポーツ活動を行わない大人（高校生以上）	500円	団体活動中とその往復中（学校管理下を除く。）	2,000万円	3,000万円	4,000円	1,500円	身体賠償 1人 1億円 1事故 5億円 財物賠償 1事故500万円（各免責金額1,000円）	突然死（急性心不全 脳内出血など）160万円
	AW子どもワイド（中学生以下の方がご加入できます。）	中学生以下の子ども	1,050円	団体活動中とその往復中（学校管理下を除く。）	2,100万円	3,150万円	5,000円	2,000円	上記補償に身体・財物賠償合算 1事故500万円を加算	突然死（急性心不全 脳内出血など）160万円
				上記以外の個人練習、個人活動など（学校管理下を除く。）	100万円	150万円	1,000円	500円	身体賠償、財物賠償合算 1事故500万円（免責金額1,000円）	対象となりません
	AC	A,AW子どもワイドの子ども（中学生以下）の指導・支援として一緒にスポーツ活動を行う大人（高校生以上）	1,000円	団体活動中とその往復中（学校管理下を除く。）	1,000万円	1,500万円	2,500円	1,000円	身体賠償 1人 1億円 1事故 5億円 財物賠償 1事故500万円（各免責金額1,000円）	突然死（急性心不全 脳内出血など）160万円
	C		1,500円		2,000万円	3,000万円	4,000円	1,500円		
大人の団体	A	高校生以上の文化活動団体	500円		2,000万円	3,000万円	4,000円	1,500円		
	B	老人クラブなどの団体	800円		600万円	900万円	1,800円	1,000円		
	C	高校生以上のスポーツ活動団体	1,500円		2,000万円	3,000万円	4,000円	1,500円		
	D	危険度の高いスポーツ活動団体	9,000円		500万円	750万円	1,800円	1,000円		

※「子ども」とは中学生以下及び特別支援学校の児童、生徒及び幼児を、「大人」とは、高校生以上の生徒、学生、社会人などをいいます。
※同一団体で1口しか加入できません。中途加入する場合、中途脱退する場合も年間掛金を適用します。加入後の加入者の入換え、加入区分の変更はできません。
※掛金には（財）スポーツ安全協会で運営する「共済見舞金制度」の掛金、1人20円が含まれています。

財団法人 スポーツ安全協会

〒105-0001 東京都港区虎ノ門1丁目12番1号　03-5510-0022

保険の詳しい内容、資料の請求は、ホームページをご覧ください。

http://www.sportsanzen.org

●資料請求は、FAXでも受付けしております。0120-104442（FAX専用）

〈共同保険会社〉
あいおい損害　共栄火災　損保ジャパン　大同火災　東京海上日動
日新火災　ニッセイ同和損害　日本興亜損害　富士火災　三井住友海上
保険については東京海上日動を幹事会社として、上記損害保険会社10社との共同保険となっております。
（2007年4月現在予定）

連載68

NTSトレーニング報告

NTS運営委員　田中　茂

平成18年度NTSセンタートレーニングが年明けの1月5日から8日までの4日間、中部大学体育館にて9ブロックより推薦され、NTS委員会にて選抜した各カテゴリー対象者男女30名、計120名の選手を集め、来年度の強化指定選手選考を開催いたしました。

昨年同様、指導インストラクターについては、強化委員、ナショナルスタッフチーム、情報科学サポートチーム、指導委員会メンバーと充実した指導スタッフにより、例年以上の充実した内容で開催されました。

■はじめに（念頭に置きたいこと）

- 個の育成
  - NTSは若い世代の為の、発掘育成システムです。
  - そして、各カテゴリーのチームを作るためのものではなく、普遍的課題克服に向けて『個を育成』することが使命です。
  - しかしながら、個人プレーという意味ではなく、日本が目指すべきゲーム像における、全体の中の『個の育成』として捉えてください。

■テーマ

- 不変のテーマ
  - 『目指せファンタジスタ！』
- 2006のテーマ
  - 『Total Mobility』

■Total Mobility

- 2000年のシステム発足以来、世界に通用する『個の育成』を念頭に展開してきました。2002年からは、NTS不変のテーマとして『目指せファンタジスタ』をかかげ、幅の広い選手像を描きました。その後もさまざまなディスカッションを経て指導内容を改正模索する中で、やはり日本が世界で戦うためには、「長所を活かした戦い方をベースに事を進めていくべきであろう。そしてそれは『機動性』なのではないか」という意見に集約されました。
- 2004年には、「豊富なアイデア、Mobility」をテーマとし、5年間の総括を致しましたが、その後、スタッフチームの発足を受けて、センタートレーニングも世界での戦い方をより意識する内容に移りつつありました。
- 今年度は、多方面からの積極的なご意見を反映させ。世界での戦い方を意識しつつ、『個の育成』をより強く認識したもの、いわば原点回帰を果たしたうえで、新たに進めていく事とさせて頂きます。
- テーマと致しましては、頭の機動性、身体の機動性、プレーの機動性…等、さまざま意味での機動性の向上を目指すという主旨で『Total Mobility』と致しました。

■内容策定の考え方（意見の集約）

～OF編～

- 強い（効果的な）突破を獲得したい
  - 勝ちの状況をものにする（1対1状況解決能力の前提条件）
  - “ずれ”の「認識」「活用」「創造」

“ずれ”

- 攻撃の原理原則的課題
  - スペースを作り、アウトナンバーを作り・・・「活用すること」
  - 苦労して創り出した“ずれ”を有効に活用する
    - レベルが上がれば上がるほど簡単には“ずれ”を創らせてくれない
    - そしてその“ずれ”には時間的制約がある

日本のトップ選手は、日本の中で圧倒的であるに過ぎない。発掘にも形態的条件に重さを置いてはいるが、それでも形態的ギャップは埋まらない。

このような意味でも、“ずれ”を課題とすることには意義があり、いずれのレベルにおいても原理原則的な課題としての意義も高い。

◇トレーニングメニューとして

- メインドリル
  - “ずれ”の状況設定におけるトレーニング
  - そこへのストーリー付けをした流れ
- 総合課題
  - 6対6の攻防の中で行う
  - メインドリルまでの課題をつよく意識する
  - それぞれのカテゴリーで抱える課題を伝達する

■内容策定の考え方（意見の集約）

～DF編～

- 能動的な機能
  - スタンダードに備えるべきものに加え、積極性を強く持つ
    - スタンダードに備えるべきものとして（NTS2000）アタック＆シュートブロック
    - 積極的な動き（2004以降）インターセプト、スティーリング
    - さらに能動的な駆け引きを入れる（2006）

単に冒険的になるのではなく、まずはライン作り等のスタンダードな考え方を持ち、必要なことができることが肝要。
同時に圧倒的な体格差、スピードを埋めるために、積極性を強く意識したDFができるようにすべき。

◇トレーニングメニューとして

- メインドリル
  - 協力体制をベースとする（ラインの意識）・・・
  - スティール系の狙いを持つドリル
- 総合課題
  - 6対6の攻防にて
  - メインドリルまでの課題をつよく意識する
  - それぞれのカテゴリーで抱える課題を伝達する

■内容策定の考え方

～GK編～

- ポジショニングの意識の徹底
  - ここまでの集約として
  - はずせないBasic Habit
- パスアウト
  - 攻撃の起点として
  - 現状に対応して

◇トレーニングメニューとして

- 個別対応
  - 動き作りとW-upはCPと別の動き動作効果を主体に指導
- CP練習の中での対応
  - DFが介在した、実戦的なトレーニングの中で準備としてのポジショニングを主体に指導

第30回全国高校選抜ハンドボール大会　開催案内

開催期日：平成19年3月25日（日）～30日（金）

会　場：徳島市立体育館、徳島文理大学体育館、鳴門県民体育館、松茂町総合体育館、北島北公園総合体育館

出場校：

【北海道】（1）〈男子〉北海道札幌真栄
〈女子〉北海道札幌月寒

【東　北】（6）〈男子〉青森山田（青森県）県立不来方（岩手県）県立利府（宮城県）県立湯沢（秋田県）県立北村山（山形県）学校法人石川（福島県）
〈女子〉県立野辺地（青森県）県立盛岡第二（岩手県）聖和学園（宮城県）県立大曲農業（秋田県）日本大学山形（山形県）県立石川（福島県）

【関　東】（8）〈男子〉県立藤代紫水（茨城県）國學院大學栃木（栃木県）県立富岡（群馬県）浦和学院（埼玉県）東京学館（千葉県）東海大学菅生（東京都）法政大学第二（神奈川県）駿台甲府（山梨県）
〈女子〉県立水海道第二（茨城県）県立栃木商業（栃木県）県立吉井（群馬県）浦和実業学園（埼玉県）昭和学院（千葉県）文化女子大学附属杉並（東京都）県立横浜南陵（神奈川県）県立山梨（山梨県）

【北信越】（5）〈男子〉県屋代（長野県）県立柏崎（新潟県）県立氷見（富山県）県立小松工業（石川県）北陸（福井県）
〈女子〉県屋代（長野県）県立巻（新潟県）高岡向陵（富山県）小松市立（石川県）仁愛女子（福井県）

【東　海】（4）〈男子〉静岡市立清水商業（静岡県）岡崎城西（愛知県）県立四日市工業（三重県）高山西（岐阜県）
〈女子〉静岡市立清水商業（静岡県）名古屋経済大学市邨（愛知県）暁（三重県）県立飛騨高山（岐阜県）

【近　畿】（6）〈男子〉県立彦根翔陽（滋賀県）府立洛北（京都府）大阪体育大学浪商（大阪府）神戸国際大学附属（兵庫県）県立紀北農芸（和歌山県）県立奈良北（奈良県）
〈女子〉県立彦根翔陽（滋賀県）府立洛北（京都府）四天王寺（大阪府）夙川学院（兵庫県）県立粉河（和歌山県）育英西（奈良県）

【中　国】（5）〈男子〉県立境港総合技術（鳥取県）県立飯南（島根県）県立岡山芳泉（岡山県）修道（広島県）県立岩国工業（山口県）
〈女子〉県立境（鳥取県）松江市立女子（島根県）県立玉野光南（岡山県）県立向原（広島県）高水（山口県）

【四　国】（4）〈男子〉県立香川中央（香川県）県立池田（徳島県）県立松山北（愛媛県）県立高知南（高知県）
〈女子〉県立高松商業（香川県）県立城北（徳島県）県立今治東（愛媛県）県立岡豊（高知県）

【九　州】（8）〈男子〉祐誠（福岡県）東明館（佐賀県）長崎日本大学（長崎県）熊本市立千原台（熊本県）県立雄城台（大分県）県立小林工業（宮崎県）県立鹿児島工業（鹿児島県）県立那覇西（沖縄県）
〈女子〉那珂川町立福岡女子商業（福岡県）佐賀女子（佐賀県）聖和女子学院（長崎県）熊本国府（熊本県）県立大分鶴崎（大分県）宮崎学園（宮崎県）県立蒲生（鹿児島県）県立那覇西（沖縄県）

【開催地】（1）〈男子〉県立鳴門（徳島県）
〈女子〉県立辻（徳島県）

第2回春の全国中学生ハンドボール選手権大会　開催案内

開催期日：平成19年3月25日（日）～28日（水）

会　場：富山県・氷見市ふれあいスポーツセンター、県立氷見高等学校第一体育館・第二体育館

参加チーム：男女各48チーム（各都道府県1チーム。ただし開催県は2チーム）

平成 18 年 3 月 19 日、渋谷：ホテルサーブ会議室において、第 4 回ハンドボールコーチング研究会が開催されました。研究会の発表について、本誌で連載報告する運びとなりました。今月は田中　守先生（福岡大学）の発表内容「ハンドボール競技に特化した体力測定項目の検討」を報告させていただきます。なお、他の発表については次号以降で順次報告いたします。

（財）日本ハンドボール協会指導委員会研究部会　舎利弗　学（学校法人福島高等学校）

ハンドボール競技に特化した体力測定項目の検討

田中　守・河合瑛実・明石光史・西　剛志（福岡大学）、安達隆博（中京大学）、
斉藤慎太郎（大同工業大学）、白井克佳（国立スポーツ科学センター）、栗山雅倫（東海大学）

キーワード：ハンドボール、体力テスト

Ⅰ．歴　史

ハンドボール選手を対象とした体力測定は、古くから一般的な測定に限定され評価されてきたが、土屋ら（1982）がハンドボール競技に必要な動きを考慮して作成した体力測定項目を提示して以来、いくつかの研究が報告されてきた。日本ハンドボール協会では、1985 年に「ハンドボール競技適性診断の手引き」を作成し、12 歳から 23 歳のハンドボール選手約 4000 名のデータを集計公表したが、その後の現場での活用や競技力向上のための評価基準の設定もなく、生かされていないのが現状である。1997 年にようやく土屋らの測定方法を参考に全日本選手を対象にしたフィールドテストが実施されたものの、その後は継続できなかった。そして、2000 年よりスタートしたナショナルトレーニングシステム（NTS）をきっかけに、簡便なフィールドテストが義務化され、翌年著者により 10 段階による評価基準が提示された。NTS では、測定時間・機器・検者と被検者の負担などからフィールドで簡便に行うことのできる項目として身長・体重・30m 走・立 5 段跳び・長座投げ・背筋力・握力が測定されている。そして、これらのデータをもとに 2004 年からは NTS への推薦基準が示されている。

Ⅱ．目　的

本研究は、2005 年度から強化委員会に新設された「情報科学委員会」の中の「体力班」が、「ハンドボール選手の体力測定ガイドライン」の作成を目標にまず取り組んだ簡便なフィールドテスト法について検討することを目的とした。

《研究１：体力測定項目の検討》

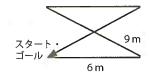
1．体力測定項目試案

無気的パワー：走パワー（30m 直線走、30m 方向変換走）跳パワー（立ち 3 跳び）投パワー（長座位ハンドボール投げ）
筋力：握力、メディシンボール後方投げ（男子 4kg、女子 3kg）
形態：身長、体重、指極、指先高
（無気的持久力、有気的パワー、調整力、柔軟性は、H18 年度検討事項）

2．根拠と方法

ハンドボール競技に特化した項目として、キーとなる数字３をポイントにした。

（１）30m 直線走：ハンドボールコート 40m をフルに走ることはなく、30m の距離が実践的であることと直線疾走能力の重要性。

（２）30m 方向変換走：あらゆる方向への変換走能力は、直線走やジグザク走の能力との関連性も含めて技能レベルの高い選手に極めて優れている。6m ─ 9m ─ 6m ─ 9m の８の字走。

（３）立３段跳び：ジャンプはほとんどが片足によるジャンプシュート時のもので、助走付片足ジャンプとの相関性も高い。

（４）長座位ハンドボール投げ：上半身のみでシュートを打てる能力がとても重要。

（５）握力：ボールのキープ力並びにスナップ力との関連性を重視。

（６）メディシンボール後方投げ：シュートスピードとの相関性が高く、また筋力的な要素をみることもできる。軽量も検討したが、筋力よりもスピード系の要素が強いため、筋力を重視。

《研究２：走パワーと跳パワーの検討》

対象者は、大学ハンドボール選手男子 20 名・女子 14 名、計 34 名である。

測定項目は、以下の通りである。

走パワー測定：測定はすべてスタンディングスタートで行ない、光電管で計測した。１）30 m直線走、２）30 mジグザグ走（鈍角走：6 m間隔に 120 度のジグザグ走・鋭角走：6 m間隔に 60 度のジグザグ走）、３）30 mシャトル走：6 mの距離を２往復半、４）30 m方向変換走。跳パワー測定：１）垂直跳び：ジャンプMDで測定、２）助走付片足跳び：３歩助走による片足跳びでの最高到達点を測定、３）立３段跳び：両足ジャンプから片足交互ジャンプ３回（着地は両足同時）の跳躍距離を測定。

Ⅲ. 結果と考察

走パワーは、表１のように、男子においてはすべてに、女子においては直線走と方向変換走に、レギュラー群が非レギュラー群を上回る傾向を示したが、いずれも有意ではなかった。各走時間を直線走の時間で除し、方向変換能力をみたところ、相互に有意な相関関係を示したことから、この能力の高低は、走スピード依存か方向変換能力依存かのいずれかであることが示唆された。

跳パワーは、表２のように、男子は立３段跳びでレギュラー群の方が有意（$p < 0.05$）に高かった。女子は３種目ともレギュー群が高い傾向を示したが、助走付片足跳びのみ有意（$p < 0.05$）に高かった。跳パワー相互の相関関係をみると、表３のように、男子においては立３段跳びと助走付片足跳びとの間に有意な正の相関関係がみられ、女子においては逆に立３段跳びと助走付片足跳びとの間に有意な相関関係はみられず、垂直跳びとの間に有意な相関関係がみられた。男子の方が、片足ジャンプの技術を身につけ、ジャンプシュート等に有効に活用していることが示唆された。

本結果は、研究１での体力測定項目試案を裏付けるほどの内容が得られず、競技水準や年齢層を広げての測定の必要性が示唆された。

表１　走パワーのレギュラーと非レギュラーの比較

測定項目（sec）	男子		女子	
	レギュラー	非レギュラー	レギュラー	非レギュラー
直線走	4.15 ± 0.12	4.27 ± 0.12	4.95 ± 0.13	5.00 ± 0.27
ジグザグ走鈍角	5.68 ± 0.21	5.81 ± 0.16	6.66 ± 0.28	6.57 ± 0.07
ジグザグ走鋭角	7.50 ± 0.14	7.68 ± 0.21	8.45 ± 0.33	8.44 ± 0.21
シャトル走	7.17 ± 0.27	7.41 ± 0.31	8.30 ± 0.35	8.17 ± 0.17
方向変換走	6.55 ± 0.10	6.77 ± 0.25	7.59 ± 0.19	7.71 ± 0.31

表２　跳パワーのレギュラーと非レギュラーの比較　　＊ P<0.05

測定項目（m）	男子		女子	
	レギュラー	非レギュラー	レギュラー	非レギュラー
立ち三段跳び	7.85 ± 0.47＊	7.25 ± 0.39	5.72 ± 0.36	5.66 ± 0.32
垂直跳び	63.00 ± 8.22	65.13 ± 5.57	47.83 ± 4.96	47.00 ± 4.96
助走付片足跳び	66.00 ± 9.67	68.07 ± 9.41	51.33 ± 4.80＊	43.00 ± 6.12

表３　跳パワー相互の相関係数　　*P<0.05, **P<0.01

測定項目	男子		女子	
	垂直跳び	助走付片足跳び	垂直跳び	助走付片足跳び
立ち三段跳び	0.384	0.465＊	0.639＊	0.371
垂直跳び	—	0.315	—	0.667＊＊

▶▶▶第５回ハンドボールコーチング研究会のご案内◀◀◀

財団法人日本ハンドボール協会 指導委員会研究部会　平岡 秀雄

ハンドボールコーチング研究会も５回を迎えました。昨年は女子監督バウワー氏を含む多くの発表を得て盛況となりましたが、時間が大幅に超過してしまいました。今年は協会常務理事村松先生の協力を得て、会場を駒澤大学に移し、２日間に渡って開催するようにしました。

発表時間を 10 分とし、５分の質疑応答時間を設けます。時間的にはかなりのゆとりが出来る予定です。多くの参加・発表を期待しています。また、今年から参加費を 2,000 円から 3,000 円に値上げさせていただきました。ただし、ハンドボールコーチング研究会を経た研究論文が掲載されます「ハンドボール研究」最新号（¥1,260）を無料配布しますのでご容赦ください。

本研究会の成果が、日本ハンドボール界の発展に寄与できるよう、皆様のご参加とご協力を期待いたします。

記

1．**大会期日**：2007 年３月 17 日（土）、18 日（日）　９時～ 12 時
　注）＊３月 17、18 日午後には、日本リーグプレーオフが開催されます。

2．**会場：駒澤大学**　〒 154-8525　世田谷区駒沢 1-23-1　TEL：03-3418-9111　　交通：田園都市線　駒澤大学

3．**研究会入会・大会申請書の送付先**　　送付先：hiraoka@tsc.u-tokai.ac.jp
　＊日本協会のホームページに「第５回コーチング研究会案内」がありますので、そちらにある申込書ファイルをご利用の上、「添付資料」でメール送信してください。
　＊メールでの送信以外は、下記住所宛て送付して下さい。
　〒 259-1292 神奈川県平塚市北金目 1117　東海大学体育学部　平岡秀雄（ハンドボール研究会事務局長）

4．**大会参加費用**
コーチング研究会大会参加費 3,000 円を大会当日に徴収します。大会に参加できない方で会員登録を希望する方は、事務局宛、現金書留にて 3,000 円を送付して下さい。後日、大会抄録・ハンドボール研究を送付いたします。大会参加者には、大会当日に配布いたします。

ご不明な点は下記へお問い合わせください。
ハンドボール研究会事務担当　舎利弗 学（学校法人福島高等学校）
E-mail:manabu@ag8.mopera.ne.jp　TEL:090-3147-4978（携帯）

広島男子ジュニアアジア予選を終えて

ドクター　有田　忍／トレーナー　尾中 祐二

8月に広島で行われた男子ジュニアハンドボールチーム、ジュニアアジア予選について報告いたします。

広島に集合した日に有田と尾中でメディカルチェックを行いました。傷害の有無、テーピングは必要か、大会期間中にドーピングコントロールがあると予想されたので最近服用した薬やサプリメントを確認しました。選手16名中、程度の重い軽いはありますが傷害があると答えた者は15名、テーピングが必要な者9名、消炎鎮痛剤を内服していた者4名でした。この年代でトップレベルの選手が集まったチームなので、日々の厳しい練習の中でやむを得ない傷害はあるとは思いますが、これほど多くの選手が傷害を抱えプレーしているとは思いませんでした。

また、約2年に渡ってこの大会に向けて強化しているチームであるにも関わらず良いコンディションで大会を迎えられていないことに不安を感じました。そうは言っても大会はもう始まりますし、各選手が少しでも良いコンディションで試合ができるようにと思いサポートにあたりました。

大会期間中はマッサージや物理療法機器を使って選手のコンディショニングを行いました。大会期間中に発生した傷害は2件、どちらも試合を欠場するような大きい傷害ではありませんでした。内科的疾患として40度近い高熱が出た選手が2名いました。コンディションを崩さないように、うがい・手洗いの徹底や生活面の指導、栄養指導を行い、自己管理の重要性をチームスタッフから何度も話していただけに残念に思います。指導が選手に十分に伝わっていなかった、これは私たちメディカルスタッフの責任でもあると思っております。

しかし、海外での大会とは違い時差もなく衛生面も良く食事もおいしく食べることができる地元日本開催での出来事です。周囲からの期待も大きく、国際大会ということでプレッシャーもあったかもしれませんが、海外での開催に比べてストレスなく生活できていたはずです。これは､高熱を出してしまった2名だけの問題ではなく、この世代の選手のコンディションに対する意識の低さ、自己管理の甘さに起因しているものと思われます。

もちろんどんなにコンディションに気を配り自己管理していても、風邪をひいてしまったりコンディションを崩してしまったりすることもあります。しかし、そうならないためにも日頃から自分の生活を律し、自己管理を行っていかなければなりません。目標とする大会に最大のパフォーマンスを発揮できるようにコンディションをつくっていかなければなりません。そのためには大会前だけの付け焼刃としてではなく、毎日の練習時から自分の身体を大切にメンテナンスし、自分に合ったコンディショニング法を見つけなければなりません。具体的には練習時はウォーミングアップ、クールダウン（ストレッチ、アイシング等)、水分補給をしっかり行う、規則正しい生活・食事・睡眠をする等があると思います。

私を含めスポーツ現場に関わる指導者はそのような教育をし、選手に日頃から実践させなければならないのではないでしょうか。特に今後の活躍が期待されるジュニアの世代にはこのような教育が大切だと改めて感じました。

最後になりましたが、大会を通じてお世話になった方々に感謝しております。大会中は日本ハンドボール協会、広島県ハンドボール協会のご協力によりドリンクや氷を試合会場や練習会場、ホテルに用意していただきました。また会場で応援していただいた関係者の方々、本当にありがとうございました。

スコアールーム ①

第15回JOCジュニアオリンピックカップ2006ハンドボール大会

開催期日：2006年12月24日（日）～27日（水）
会　　場：大阪府堺市・家原大池体育館、金岡公園体育館

【男子】

優　勝：沖縄県選抜
準優勝：愛知県選抜
3　位：茨城県選抜・大阪府選抜

▼予選リーグ

◆Aブロック

沖縄県	33（17－4、16－5）9	愛媛県
京都府	18（10－12、8－5）17	岐阜県
沖縄県	35（19－8、16－5）13	京都府
愛媛県	30（16－11、14－18）29	岐阜県
沖縄県	29（13－10、16－11）21	岐阜県
京都府	26（13－10、13－9）19	愛媛県

◆Bブロック

茨城県	34（14－7、20－3）10	堺（開催地）
富山県	28（11－8、17－9）17	北海道
茨城県	36（19－12、17－7）19	北海道
富山県	31（15－9、16－9）18	堺（開催地）
茨城県	36（18－8、18－15）23	富山県
堺市（開催地）	25（13－13、12－12）25	北海道

◆Cブロック

東京都	22（11－8、11－9）17	秋田県
愛知県	27（11－10、16－11）21	山口県
愛知県	31（17－12、14－10）22	秋田県
東京都	31（16－10、15－18）28	山口県
愛知県	27（14－11、13－8）19	東京都
山口県	24（11－6、13－11）17	秋田県

◆Dブロック

福井県	25（12－12、13－5）17	熊本県
大阪府	27（12－4、15－12）16	香川県
大阪府	33（20－14、13－16）30	福井県
熊本県	44（19－13、25－3）16	香川県
福井県	42（16－11、26－11）22	香川県
大阪府	30（16－11、14－9）20	熊本県

▼準決勝

沖縄県	29（15－9、14－7）16	茨城県
愛知県	29（14－11、15－14）25	大阪府

▼決　勝

沖縄県	30（14－7、16－14）21	愛知県

※沖縄県は3年ぶり4回目の優勝

【女子】

優　勝：岡山県選抜
準優勝：熊本県選抜
3　位：愛知県選抜・大分県選抜

▼予選リーグ

◆Aブロック

東京都	41（21－7、20－9）16	福島県
熊本県	36（22－3、14－12）15	堺（開催地）
熊本県	34（21－14、13－17）31	東京都
福島県	23（11－5、12－7）12	堺（開催地）
東京都	38（20－1、18－10）11	堺（開催地）
熊本県	28（18－3、10－12）15	福島県

◆Bブロック

山口県	22（13－6、9－13）19	兵庫県
愛知県	39（22－1、17－8）9	北海道
愛知県	19（10－2、9－6）8	兵庫県
山口県	37（21－3、16－5）8	北海道
兵庫県	35（14－5、21－8）13	北海道
愛知県	14（8－6、6－5）11	山口県

◆Cブロック

大分県	28（16－6、12－9）15	香川県
岩手県	31（14－8、17－10）18	千葉県
香川県	27（16－12、11－11）23	岩手県
大分県	28（14－12、14－6）18	千葉県
香川県	23（15－7、8－8）15	千葉県
大分県	43（21－13、22－16）29	岩手県

◆Dブロック

京都府	31（16－13、15－11）24	石川県
岡山県	29（14－9、15－7）16	岐阜県
岡山県	32（19－7、13－8）15	京都府
石川県	25（9－15、16－8）23	岐阜県
岡山県	28（15－7、13－10）17	石川県
京都府	22（7－8、15－11）19	岐阜県

▼準決勝

熊本県	20（9－9、11－8）17	愛知県
岡山県	27（14－6、13－15）21	大分県

▼決　勝

岡山県	26（15－10、11－9）19	熊本県

※岡山県は初優勝

がんばれハンドボール10万人会「サポート会員」1月入会・継続会員

【岩手】多田和生　【茨城】岡本　大　【東京】渡邊佳英、西岡雅樹、飯田信行、川村浩一、大場信吾
【神奈川】夏山真也　【長野】丸山洋子　【福井】野路嗣冶　【滋賀】大迫祐介　【京都】石井惇史
【大阪】長嶺利昭、中川大嗣　【奈良】木村和正、木村雅俊、木村加代　【鳥取】萬　隆志
【岡山】小林裕子、小倉富士夫　【熊本】成瀬彰彦

【3月の行事予定】

【会　議】
3月10日（土）常務理事会（東京）

【大　会】
3月17日（土）～18日（日）
　第31回日本リーグプレーオフ（東京・駒沢体育館）
3月25日（日）～30日（金）
　第30回全国高校選抜大会（徳島市・徳島市立体育館ほか）
3月25日（日）～28日（水）
　第2回春の全国中学生選手権大会（富山県氷見市）

HAND BALL CONTENTS Mar.

（登録チームの購読料は登録料に含む）

世界の空へ、笑顔を乗せて。

(財)日本ハンドボール協会編『ハンドボール』第四七八号

昭和四十年六月七日第三種郵便物認可
平成十九年二月二十六日印刷　平成十九年三月一日発行

東京都渋谷区神南一－一－一
電話 代表〇三－三四八一－二三六一
振替 〇〇一二〇－七－一〇二九三

編集兼発行人　大西武三

定価　年間三三〇〇円